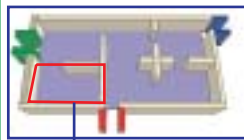


市場の失敗



どんな市場も効率的に機能するだろうか？

市場は競争的にすることが経済を最も効率的に動かすための手段となる。

しかし、(1) 完全競争市場の実現が不可能な場合、または(2) 完全競争市場であっても、効率的資源配分が達成されない場合がある。

これを、「市場の失敗」といい、市場の失敗が発生する場合は、政府が介入し、競争市場に等しくなるような政策が行われる。

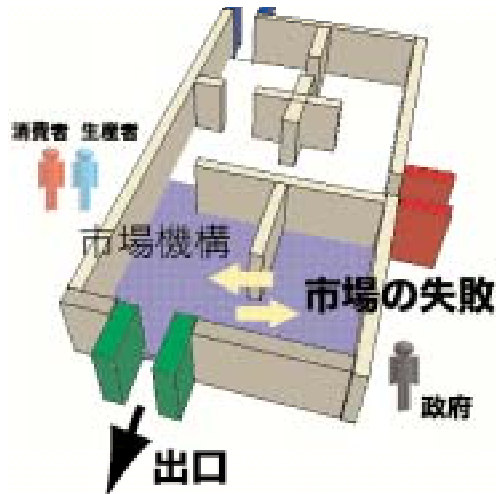
例えば、競争市場における均衡需給量よりも、何らかの理由で少ない生産が行われた場合、右図のように厚生損失が発生する。

これは、資源配分に失敗していることがわかる。

したがって、政府が介入し、課税や補助金という政策によって需要曲線や供給曲線をコントロールし、適正な価格を実現させることによって効率的な資源配分を達成させることになる。

市場の失敗には、

- 1 外部効果の存在
 - 2 公共財の存在
 - 3 費用逓減産業の存在
 - 4 情報の不完全性の存在
- などがある。



市場の失敗

市場の失敗とは、市場のメカニズムによっても社会的厚生(余剰)が最大化されないことをいう。

この市場の失敗のケースは独占や寡占、情報の不完全性、または何らかの制度的要因や摩擦によって価格の硬直性が生じ、完全競争均衡の成立が妨げられる場合と、たとえ完全競争均衡が成立したとしても、消費や生産に技術的外部効果(外部経済、外部不経済)が作用したり、公共財や費用逓減産業が存在する場合には発生する。

ただし、本テキストでは完全競争が成立していて、市場の失敗が発生する場合のみを取り上げる。

